

学校名 川口市立飯仲小学校
所在地 川口市南町2丁目3番地1号
電話 048-251-4442

1 本校の概要

本校は川口駅西口近くに位置し、教育活動に協力的な地域である。地域から読み聞かせボランティア、図書ボランティアの協力も得て、読書活動を進めている。学校図書館は、低学年用と高学年用の2つが設置されている。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・ 読書に親しむ態度や読書週間に関わる取組
- ・ 司書教諭・学校図書館司書などを活用した取組

(2) 実践の概要

ア 継続的に読書に取り組む活動 読書貯金

読書の記録として、1年間記入していく。10冊読み終える毎に、本店(校長室)に持っていき報告、店長(校長先生)より、コメントを書いてもらう。



1年目…13,340冊

2年目…16,020冊

3年目…19,810冊

420/524名

(全校児童の80%の児童が来室)

イ 図書委員会が推進する読書活動

10月の読書月間では、日頃の活動に加え、図書委員が読書活動推進の取組を考え実施した。

① クラス対抗ポイント取り合戦

読書月間の1か月間で、休み時間に学校図書館の本を何冊借りたかを競う。

② 読書リレーと感想の共有・分類

各クラス4人～6人(学年に応じて)のグループを作り、1か月間で1冊の本をリレー形式で読書する。ゴールしたら、グループで話し合い自分たちの感想に近い気持ちの分類にカードを貼る。カードを貼る場所を児童がよく通る廊下にしたところ、活動後の振り返りを全校で共有することができた。



ウ 司書教諭による学校図書館を活用した授業実践

1年生 としょかんへいこう	4年生 百科事典の使い方 ポップづくり
2年生 図書館たんけん	5年生 図書館を使いこなそう
3年生 図書館たんていだん	6年生 主張と事例(情報)

① 前4年生→現4年生への挑戦状

昨年、4年生に百科事典の授業をした際に、問題づくりをした。その問題を今年の4年生が百科事典を使い解決した。



② 多様性に応じた配架の工夫

学校図書館司書の提案で、幼児向けの本のコーナーを作った。少し落ち着きたい時、入学したばかりの1年生を安心させたい時の利用、また日本語が難しい外国籍の児童の利用等を考えながら配架した。



3 成果と課題

(1) 成果

読書貯金では、今年度の半年間で70%の児童が10冊以上参加し、特別な読書活動のない時でも定期的に校長室に届ける児童が増えた。活動が定着したことがわかる。

また、読書月間の取組を通して、学級単位で学校図書館を活用することが多くなった。

読書リレーでは、感想をグループで話し合いながら掲示することで、考えを交流し、共有することにもつながった。

(2) 課題

- ① 継続した児童の読書活動への意欲を保つ働きかけ
- ② 情報センターとしての環境の工夫と提示の仕方

(3) おわりに

子供たちと職員が一緒になって取り組んでいくことの効果と大切さを感じている。学校長が読書貯金に携わって3年目。多くの児童が活字に抵抗なく読書をしている6年生の様子から、積み重ねてきた読書活動が定着してきたと感じる。